



十和田市郷土館企画展

暮らしの履きもの

令和元年

9/14 (土) - 10/27 (日)

午前9時～午後5時 ※月曜日休館

十和田市郷土館

十和田市大字奥瀬字中平61-8 TEL0176-72-2340

お問い合わせ スポーツ・生涯学習課 TEL0176-72-2313

はじめに

現在、私たちの周りでは大量生産で作られた「履きもの」であふれていますが、当地域でも昭和時代初期までは、伝統的な「ゾウリ」「ワラジ」「下駄」や雪国独特の「ツマゴ」「シベ」「フカグツ」「雪下駄」などが使用されていました。

今回の企画展では、当市が所蔵する資料の中からかつての生活や仕事の場などで使われてきた様々な形の「履きもの」について取り上げ、紹介していきます。

1. 履きもの 種類と歴史

日本人がいつから履きものを使い始めたかはよくわかっていません。民族例にみられるような植物の蔓や皮、動物の皮などを利用したものだったと推定されています。

日本で見つかっている古い履きもののひとつに**田下駄**があります。弥生時代に稲作の開始とともに使われるようになったもので、湿田でも足が沈まないようにするためのものです。形を変えながら昭和時代まで使用されました。

奈良時代になると、日本は中国などの国の制度を取り入れた国づくりをおこないました。国家の基本法となった養老律令では「衣服令」(えぶくりょう)が定められ、国に仕える官人が身に着けるべき衣服・履きものが身分ごとに定められました。

平安時代になると、今日の**草鞋**(わらじ)、**草履**(ぞうり)、**足駄**(あしだ、下駄の一種)など、鼻緒のついた履きものが発達します。

鎌倉時代になると、武士階級の台頭とともに草鞋や草履が履かれ、一般大衆も履物を履く風習が普及するようになりました。

また、足裏の半分ほどの長さの足半(あしなか)草履が登場します。爪先に力がかかっても鼻緒が切れにくく戦場などで履かれました。

江戸時代になると、町人文化が栄え、**草**



ワラジ



ムスビゾウリ



高下駄 (足駄)

履、下駄、足袋が著しい発達を遂げました。

特に、下駄は様々な形状に変化が見られ、元禄の頃から桐台、塗り下駄、表打ち下駄や布、革の鼻緒が用いられ始め、華美な下駄が大流行しました。

明治時代になると、東京築地に西洋式製靴工場がはじめて創設されました。日本人にあう**軍靴**(ぐんか)を量産するためのものでしたが、これ以降、文明開化の風潮に乗って西洋式の靴が広がっていきました。

日本の伝統的な履きものにも改良が加わり、ゴムなどを付けた草履や**地下足袋**などが発明され、下駄も機械で作られるようになっていきます。

しかし、昭和30年代以降、高度経済成長期に入ると、大量生産で作られた欧米式の靴が急速に広がり、下駄、草履などの履きものは少なくなっていきました。



ゴッポ (ポックリ)



軍靴 (編上靴)

2. 雪国の履きもの

当地方は雪国のため、様々な冬用の履きものが使用されてきました。

藁製のものでは、**フカグツ**、**ツマゴ**、**スベ**などがあります。フカグツは長靴状の履きもので、ツマゴは短靴のような形状をしています。山仕事などの際に履かれました。スベは先端をスリッパのように折り曲げて作られたもので、近所へ行く際などに履いたものです。また、深雪を歩く際などには、ツマゴなどにカンジキをとりつけました。

下駄については、冬期間は**雪下駄**を履きました。雪下駄は、動物の毛などが付けられた覆い(つまがわ)が取り付けられており、歯の裏にはスベリ止の金具が取り付けられているなどの特徴があります。



スベ



雪下駄

3. 仕事の履きもの

昔は各家庭で味噌づくりを行なっていました。**ミソフミツマゴ**は、トナガマで煮た大豆つぶす時に使った履きものです。この作業は大抵男の人がおこないました。

また、当地方は馬産地であったため、馬にはかせる**マグツ**というワラ製のはきものも作られました。馬の蹄を守るためのもので、蹄鉄が普及する前に使用されました。



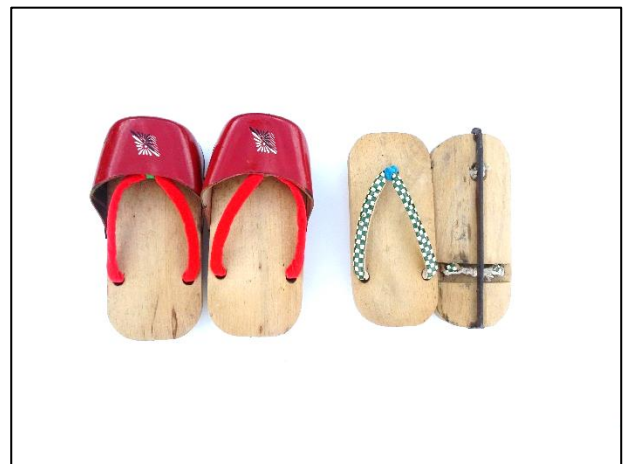
マグツ

4. あそびの履きもの

当地方の子供たちは冬の間、**竹ぞり**や**カナ下駄**などで遊びました。

竹ぞりは、竹をまげて作ったスキーで、雪の積もった雪道で遊びました。上手に滑るにはコツがいったそうです。

カナ下駄は、下駄の台に歯を付けたスケートで、氷の張った田んぼや道路脇で滑って遊びました。

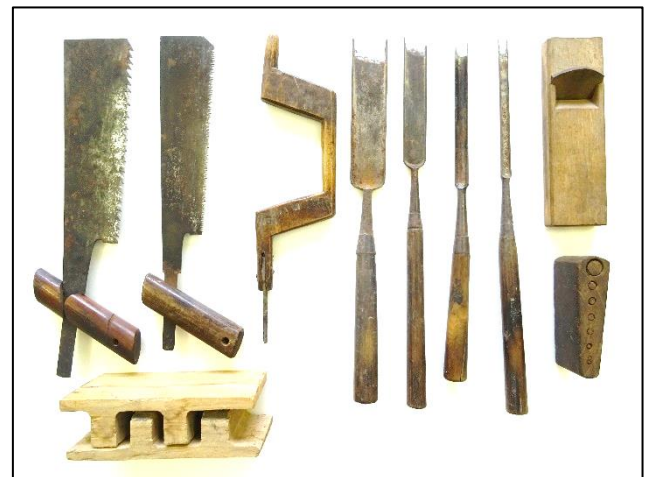


カナ下駄

5. 履きものをつくる

ワラ製の履きものは、各家庭で作られました。作るのは男性の役割でした。

下駄は購入するのが一般的で、市内にも下駄職人がいました。下駄の製作はひとつの木片から一足分を切り出すクミドリの技術により本体を作り出します。下駄の工具は、作業の毎に細かく使い分けられており、ジュウノウノミなど独特なものが使われていました。



下駄職人の工具

「きみがらスリッパ」

きみがら（とうもろこしの皮）を使って作られたスリッパです。丈夫で軽いのが特徴で、民芸品としても人気があります。十和田市の名産となっています。

